

校内研修計画

甲州市立東雲小学校

1. 学校課題

本校の児童は、明るく素直で友達と仲良く活動している。縦割り活動などで上級生が下級生の面倒をみるなど、つながりが強くなってきており、日常生活の中でも異学年で遊んだり、上級生が下級生を気遣ったりする場面も見られる。また、学校行事や児童会行事への取り組みに対して、前向きで真面目に取り組むことができる。さらに、昨年度までの取り組みの中では、「相手の目を見てあいさつをしてから礼をする」などが身につけてきている。しかし、読書量には個人差があり、その内容についても課題がみられる。学習面においては、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、友達の考えと比べてよりよい考えを練り上げたりすることが身につけていない児童がいる。それは、課題解決にむけ論理的に考えたり、それを表現したりすることが苦手だったり、自分の考えに自信がもてなかったり、自分の考えを人に伝えることに消極的であったりする子どもが多いことが要因として挙げられる。

2. 研究主題

「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成」

～ 算数科における言語活動の場の設定や学習活動の工夫 ～

3. 主題設定の理由

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実することが大切である。

本校では、「伝え合う」「話し合う」活動を充実させていくために、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった基礎となる言語力の育成を目指し、言語活動の充実をすすめてきた。今年度は、算数科の指導において国語科などで培われた言葉による表現とともに、数、式、図、表、グラフといった数学的な表現の方法を用い、思考力・判断力・表現力等を育成するため、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れ、言語活動の場の設定や学習活動の工夫をすることで、自ら進んで考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成を目指していきたいと考え、「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成」を研究主題として設定した。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- ①算数科における「言語活動の充実」による授業改善
- ②言語環境を整えるための日常的な取り組みの共有
- ③NRTの分析と結果を生かした取り組み
- ④学級集団づくり、K13法の理論研究（Q-Uの分析と結果を生かした取り組み）
- ⑤授業案の作成・検討及び授業実践

(2) 研究の方法

- ①講師を招いての学習会
- ②授業研究会（2回）
- ③一人一実践授業の提供

年間校内研修計画

研究主任 有井 哲也

実施月日	研修内容 (領域)		担当・学年	T・C要請	
4	9	第1回	研究の方向性について	研究主任	
	16	第2回	研究主題・内容・方法・組織・年間計画	研究主任	
5	1 4	第3回	各ブロックの研究 (授業づくり)	ブロック長	
	28	第4回	各ブロックの研究 (授業づくり)	ブロック長	
6	1 1	第5回	K13法学習会	長尾先生	○
	25	第6回	各ブロックの研究 (QUの結果・課題)	ブロック長	
7	7	第7回	各ブロックの研究 (授業づくり)	ブロック長	
8	2 0	第8回	Q-Uの結果分析・課題、教育課程	研究主任	
	27	第9回	授業案検討 (6年1組)	ブロック長	
9	10	第10回	研究授業・研究会 (6年1組)	研究主任	○
10	8	第11回	各ブロックの研究 (授業づくり)	ブロック長	
	1 5	第12回	各ブロックの研究 (授業づくり)	ブロック長	
	24	第13回	各ブロックの研究 (授業づくり)	ブロック長	
11	5	第14回	授業案検討 (4年)	ブロック長	
	1 9	第15回	研究授業・研究会 (4年)	研究主任	○
	28	第16回	各ブロックのまとめ	ブロック長	
12	3	第17回	研究紀要に向けての準備 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトのまとめ	研究主任 部会長	
	17	第18回	QUの結果分析・課題	ブロック長	
1	19	第19回	研究の成果と課題のまとめ	研究主任	
2	25	第20回	来年度の研究の方向性について	研究主任	
3	5	第21回	研究紀要作成	研究主任	

※この他に、研究テーマに沿って全職員が授業実践を行い、お互いに授業を参観することにより、研究を深める。